

本市のコミュニティ施策... いこまのミライのために...
生駒市版「まちのえき」を創ろう！



目次

1. 歩いて行ける「まちのえき(=複合型コミュニティ)」とは？
2. 「まちのえき」が必要な社会的背景
3. 「まちのえき」の具体的な取組事例
4. 「まちのえき」設置に向けた支援

1. 歩いて行ける「まちのえき」とは？

歩いて行ける「まちのえき」のイメージ



地産地消、移動支援、地域活性化を、地域の協創で実現！

「まちのえき」=複合型コミュニティとは？

- **いつ** (When?) : 日常的(定期的)に、
- **どこで** (Where?) : 歩いていける自治会館や公園などの拠点で、
- **誰が** (Who?) : 地域住民を中心としつつ、外部の支援者とも連携し、
- **何を** (What?) : 地域を楽しい場所とし、結果として地域課題の解決につながる福祉・環境・文化・地産地消などの活動を、
- **どのように** (How?) : 既存の活動と新規の活動とを組み合わせ、また、支援する人とされる人を固定化せず、すべての人が役割を持ちながら、

結果 : 絶えず様々なサービスが自立的に提供され、人的交流が生まれるコミュニティ

基本的な考え方

- (1) 課題対応、利便性の向上
- (2) 一人も取り残さないために、誰一人お客さんにしない

誰もが歩いて行ける場所に「まちのえき」を！

生駒市で全ての自治会館に「まちのえき」ができれば、

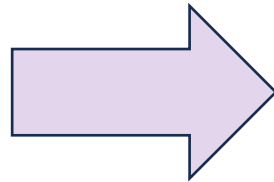
歩いて10分以内に「まちのえき」がある市民は約90%

R7.9月時点

16カ所20自治会で設置

+

複数自治会と調整中



R8年度中に

50カ所の設置を目標

2.「まちのえき」が必要な社会的な背景

(1) 公共交通・ライドシェアより効果的な移動支援

高齢化の現状①（2025.9.14 総務省発表）

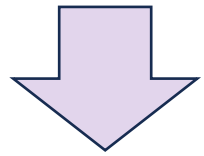
- 日本人の平均寿命は、男性 81.09歳 女性 87.13歳
- 65歳以上の高齢者人口は、3,619万人（総人口比 29.4% 過去最高）
- 75歳以上は、2,124万人（総人口比 17.2%）
- 80歳以上は、1,289万人（総人口比 10.5%）10人に1人以上が80歳
- 2050年には、65歳以上の高齢者人口は37.1%になると見込まれる
- 人口4千万人以上の38か国について、65歳以上人口の割合を比較すると、日本（29.4%）が最も高く、次いでイタリア（25.1%）、ドイツ（23.7%）フランス（22.5%）となっている。

高齢化の現状②

65歳以上の一人暮らし急増

- ・ 昭和55年 男性 4.3%、女性 11.2%
- ・ 令和 2年 男性 15.0%、女性 22.1%

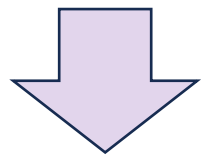
人生100年時代を喜ばない
一人暮らし世帯
の急増



「認知症」から「移動支援、買い物・医療難民」へ
「免許は返納したいが、返納したら生きていけない」

高齢者の運転事故
が社会問題に

移動手段の確保の難しさ（買い物支援の切り札になっていない）



- ・ 公共交通バス、デマンド交通（利用者減少、バス路線以外の市民の理解）
- ・ ライドシェア、グリーンスローモビリティ等

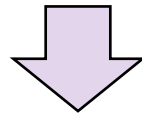
問いの再構築

交通手段の多様化と同時に、「歩いて行ける」場所に生活機能、コミュニケーションの場を創る方が効果的ではないか？

(2) 核家族化を補う地域での子育ての場

<少子化の現状>

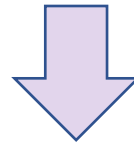
- 2024年出生数: 68万6,061人(前年比4万1,227人減:過去最少)
- 合計特殊出生率: 1.15(前年は1.20:過去最低) ⇒ さらに減少見込み
- 予定・理想の子どもの数「1人以下」は6.6%、実際は27.3%
- 予定・理想と現実の乖離の理由
 - ◆「子育てや教育にお金がかかりすぎるから(52.6%)」
 - ◆「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから(23.0%)」
- 他方、核家族化、共働き世帯増加など、家族の子育て機能の低下



現代社会において、子育て世帯の負担軽減には、子育て世代同士が
つながる場、世帯だけでなく「地域で育児」できる場・機会が不可欠

(3) 活用されていない自治会館、公園を活かす

- 自治会加入率は、平成22年に78.0%だったものが、コロナ禍なども経て、令和2年には71.7%と大きく減少(負担を超える価値を提供できていない) ※本市の自治会加入率 H22:82.7%→R7:73.2%
- 高齢者の利用に偏る自治会館
- 利用規制・制限だらけで活用できない公園の増加



- 住民ニーズに応える価値を生み、多様な世代が集まる自治会館
- 住民主体の多様な活用が実現する公園

⇒ 「歩いて行ける」場所にある資産を最大限活かす！

3.「まちのえき」の具体的な取組事例

(1)まちのスポーツジム(運動する)

<背景>

- 急速な高齢化、健康寿命の延伸
- 障がい者、子ども達にも楽しいスポーツの普及

<概要>

- 市民主体の体操教室で健康づくり
- ボッチャ、モルック、グラウンドゴルフなど



<効果・意義>

- 頭と体を同時に使うことによる高い健康増進効果
- モルック・ボッチャなどは全世代、障がい者も参加可能
- 集客力の高さを活かせる

(2)まちのショッピングセンター(買う)

<背景>

- 買い物支援が必要な市民の増加
- 多様な販売方法への転換を模索する事業者

<概要>

- 400種類の商品を扱う移動スーパー
- 地元農家の朝どれ野菜販売
- 出張駄菓子屋
- 大手小売事業者の実証事業(赤ちゃん本舗、花王ほか)



<効果・意義>

- 近くで買える(高齢者の移動支援、子育て世帯の負担軽減)
- 野菜などが安い、フードロス対策など

(3)まちの食堂・喫茶店（食べる）

<背景>

- 高齢者夫婦や一人暮らし高齢者の世帯の増加
- 食事の提供で創業を考える人の増加（飲食店・主婦など）
- 要介護や死亡リスクが高くなる「低栄養傾向」の高齢者の増加
- 1日3食が辛い子育て世帯

<概要>

- 自治会館での地域食堂、軽食サロン
- キッチンカーの出店



<効果・意義>

- 安い、おいしい、楽しい、みんなに役割
- 顔の見える関係、外出のきっかけ

(4) まちの図書館（読む）

<背景>

- ・子どもをはじめとする「読書離れ」
- ・公共図書館の増加(20年間で600館以上、約24%増加)、集客力の高さ
- ・コロナ禍に、自宅の本や漫画を断捨離したいというニーズ

<概要>

- ・自治会館にDIYで本棚を作成
- ・各世帯から本・漫画・絵本・DVDなどの寄付(断捨離)
- ・まちの図書室での貸し出し、ビブリオ、読み聞かせなど



<効果・意義>

- ・通いやすい、男の人の出番、公立図書館との連携
- ・断捨離、柔軟な運用(漫画、DVD、お茶)、いろんな本の企画

(5)まちの学校・塾（学ぶ）

<背景>

- ・「協働的な学び」の必要性
- ・子ども同士が教え合い、大人と対話する中で、より深い学びを得、自信をつける

<概要>

- ・自習室
- ・出前授業
- ・放課後子ども教室
- ・学習塾、宿題合宿(斜めの関係から本格的な塾指導まで)
- ・みんなのセミナー



<効果・意義>

- ・多様な学びの場、自律的で双方向の学び、地域での学び

(6)まちのアトリエ・スタジオ（演じる・観る）

<背景>

- 自治会文化祭が復活・増加
- コロナ禍で文化・芸術に再注目
(活発な制作、人に見てもらいたい)

<概要>

- 自治会館で、写真展、絵画展、書展、文芸展…まちのアトリエ
- 一本のギター、エレクトーン、ストリートピアノ…まちのスタジオ
- カラオケも立派な文化活動



<効果・意義>

- 高い集客力、新しい生きがいの発見、観るから制作する側へ

(7)まちの遊び場（遊ぶ）

<背景>

- 幼児期に外遊びをよくしていた児童は、体力も高い
- 低年齢層(0歳から満9歳)の子どもの74.4%がインターネットを利用

<概要>

- 公園をWSで再生、活用(1人当たり公園面積は増加、禁止事項の解きほぐし)
 - 鬼ごっこ、缶蹴り、縄跳び、ボール遊び、みんなのプール・ストライダーレース
 - 祭り、焚火・BBQ・焼き芋会、キャンプ
- 自治会館でゲーム(子ども)、健康麻雀(シニア)、ボードゲーム(多世代)

<効果・意義>

- スマホ禁止・制限でなく、スマホ以外の面白さの提供
- 世代を超えて楽しむ、女性の麻雀ブーム
- 公園管理を地元で



(8)まちの農場（耕す、栽培する）

<背景>

- 耕作放棄地面積：平成7年に24.4万ha、平成27年に42.3万ha
- ガーデニング・家庭菜園の市場規模は、コロナ禍もあり、2365億円と堅調

<概要>

- 農家の指導により、農地をみんなで開拓・管理・活用
- 収穫祭、焼き芋、BBQ、芋煮会、ピザ窯、BBQプレートのWS

<効果・意義>

- 耕作放棄地の解消と農地の有効活用
- 収益確保、まちのえきの持続可能性
- 子育て世代の参加
- 地ビール企画・マルシェとの連携など発展可能性高い



(9)まちのリサイクルステーション（循環する）

<背景>

- リサイクルの不徹底(燃えるゴミ中、古紙類8.9%、プラ製容器包装8%、食べ残し17.8%(手つかずが8.5%))
- コロナ禍の断捨離ブーム

<概要>

- リサイクル品をいつでも出せる基地、壊れたおもちゃや家電の修理
- 子ども服やおもちゃ・本などのリユース・交換の場、フードドライブ
- フリーマーケット
- 生ごみ回収、量り売り
- メルカリ講座、メルカリを活用した断捨離促進



<効果・意義>

- 3Rの推進、モノを通じた交流、販売による収益確保

(10)まちの保健室・病院（診る・癒す）

<背景>

- ・高齢者の外出希望先2トップ「買い物」「病院」
（買い物：80.7%、通院：45.2%、趣味・社会活動：44.6%）



<概要>

- ・「まちの保健室」：健康体操、体力測定、健康相談・指導、介護者の支援
- ・「まちの病院・診療所」：オンライン診療の都市部への対象拡大、在宅だけでなく公民館なども利用可へ

<効果・意義>

- ・健康増進、医療費削減
- ・身近な場所での受診、安心

(11)まちの保育園（育てる）

<背景>

- 子どもを育てやすい国だと感じる日本人は61.1%（他国より低い）
- 「地域で子育てを助けてもらえるから」「社会全体に理解があるから」と答えた人も減少

<概要>

- 育児相談
- 子育て世帯間の子育てシェア
- 地域での一時預かり、「家庭的保育事業」

<効果・意義>

- 子育て世帯の負担軽減、子どもの多様な学び、地域の活性化

(12)まちのオフィス（働く）

<背景>

- 企業のテレワークOK:51.2%、×:37.7%
- 自宅83.7%、シェアオフィス約10%

「家族に気兼ね」「職場以外の人との交流や人脈」「買い物と合わせて利用」「自宅にこもらないように」など

<概要>

- 「まちのオフィス」は、自治会館の空き室利用したシェアオフィス
→ 近い、安い、子ども連れOK

<効果・意義>

- 現役世代と地域との接点、現役世代にも地域活動にもプラス

(13)まちの避難所・交番（守る）

<背景>

- ・災害が増えているが、指定避難所まで歩いて行けない
- ・犯罪件数や交通事故(特に高齢者)の再増加

<概要>

- ・電気自動車(EV)を自治会館につないで簡易避難所に
- ・平時、EVは青パト・助け合い交通にも活用
- ・特殊詐欺や交通安全の啓発(1人暮らしの被害リスク軽減)



<効果・意義>

- ・コミュニケーションと地域力で犯罪や事故を減らす
- ・平時のつながりが災害時に生きる、近場で安全・安心を確保

(14)まちのマーケット・マルシェ（楽しむ）

- 「まちのえき」の取組の全てが集結
- 現役世代の集客力が高い
- 公園活用の有効な方法
- まちづくりへの参加のステップアップ



いこまちマーケット部によるマルシェ開催支援

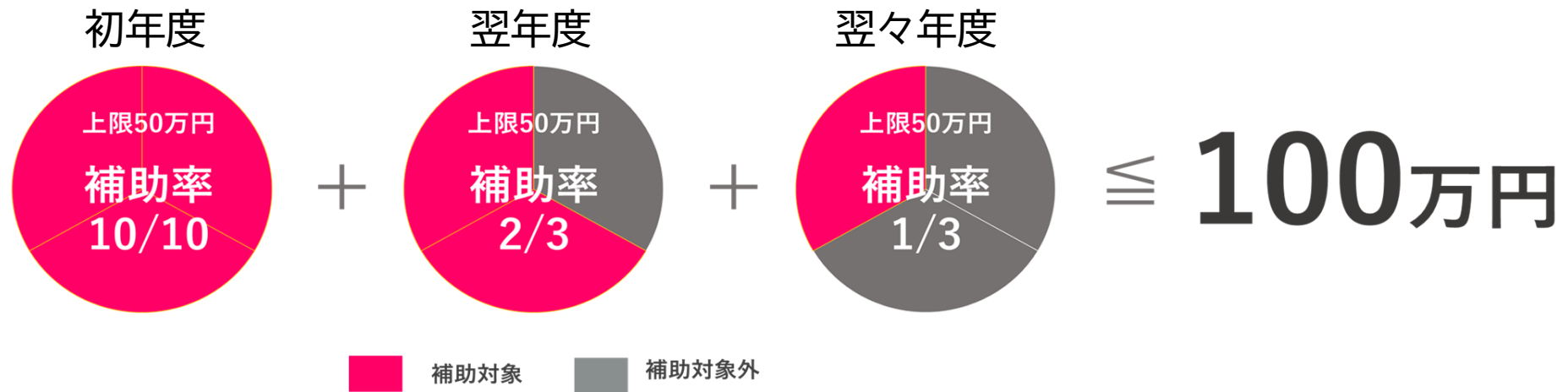
- 「住みやすさ」だけでなく、「働きやすさ・多様な働き方」
- 暮らしたいまちは自分で創る！

4.「まちのえき」設置に向けて市の支援

設置に向けたスタートアップ等支援

<補助金の交付>

- 各年度上限50万円(補助率:初年度10/10、2年目2/3、3年目1/3)
- 初年度事業の効果が大きい、継続により大きな効果が見込まれると判断される場合は、最大3年・補助金額合計100万円まで支援



<人的支援>

事業計画策定や運営支援のため、中間支援組織や市の職員などが適宜伴走支援を積極的に実施

地域課題・ニーズ調査(地域アンケート実施)

「まちのえき」(複合型コミュニティづくり)を進めたい、希望される自治会は、事前に地域内のニーズの把握の為、アンケートの実施し、その調査を分析した上、地域コミュニティ推進課職員等と一緒に事業計画を策定。

地域の多様な世代が参加できる事業を一緒に考えます！



民間事業者と自治会を繋ぎ活動を支援①

花王グループ【いきいき講座】

(株) 1 plus 1 【キッチンカー】



出張型サービス

生駒市の皆様のキレイライフスタイルを実現する、
美・健康・暮らしをサポートする5つの講座。
講座1回あたり、30分～60分。



ネットワーク運営

- ・事業者の仲介ネットワーク運営
- ・自社のキッチンカー(サービス、取扱品)
例)キーマカレー、ホットドック、フライドポテト、
わたあめ 等

民間事業者と自治会を繋ぎ活動を支援②

いこま応援マルシェ【キッチンカー】

近商ストアー「とくし丸」【食品等の販売】



食品・食材

(代表)フェリスクレープ
(クレープ、かき氷、ドリンク)
・キッチンカー手配
・物販、ハンドメイド当の手配



食品・食材

お刺身、寿司、お肉、野菜、果物、パン・お菓子、日用品など。
軽トラにたっぷり400品目！
見て買えて、注文もできる移動スーパーです！

民間事業者と自治会を繋ぎ活動を支援③

(株)赤ちゃん本舗【キッズ用品販売】



衣類・日用品

マタニティ・ベビー・キッズ用品(雑貨や消耗品が中心)
価格は定価での販売となります。
事前に指定頂ければ、その商品を準備します。

(株)ヤサカ宅配センター【健康測定】



食品・食材

- ・骨密度測定
- ・体成分、筋肉量測定
- ・明治、エルビー飲料の宅配サービス
- ・ご当地グルメチラシ商品の宅配サービス

庁内各課が「まちのえき」を支援 ①



●図書館：出張図書館・読み聞かせ

庁内各課が「まちのえき」を支援 ②



●農林課：地元農家による野菜市

庁内各課が「まちのえき」を支援 ③



●市民活動推進センター:「おたすけ帳」出前講座

●国保医療課:まちかど保健室

「おたすけ帳」の一覧は
こちらからも確認できます→



複合型コミュニティ(まちのえき)

お問い合わせは、

地域コミュニティ推進課へ！